

放射線治療と上手く付き合うため

放射線医学講座 北川未央

厚生労働省の発表によると、現在2人に1人ががんにかかる時代と言われています。がんの治療は大きく分けると、手術療法、化学療法、放射線療法、免疫療法や先端治療となります。

放射線とは、いろいろな物を通り抜け、物の性質や状態を変えることができます。人の目には見えない小さな粒や光の仲間であり、この放射線がんを集中させてあてて治療をします。切らずにがんを治療することが可能であり、臓器の機能や形態を残すことができるため、同じ局所治療である手術よりは負担が軽いことが多いとされています。

照射法は大きく分けると外部照射と内部照射があり、外部照射はX線や電子線を使用するライナックやサイバーナイフ、粒子線治療などがあります。また、内部照射は腔内照射、組織内照射、非密封核種内用療法があります。近年外部照射はIMRTの普及で、がんへは均一に照射し、正常臓器はあてないように照射することが可能となりました。

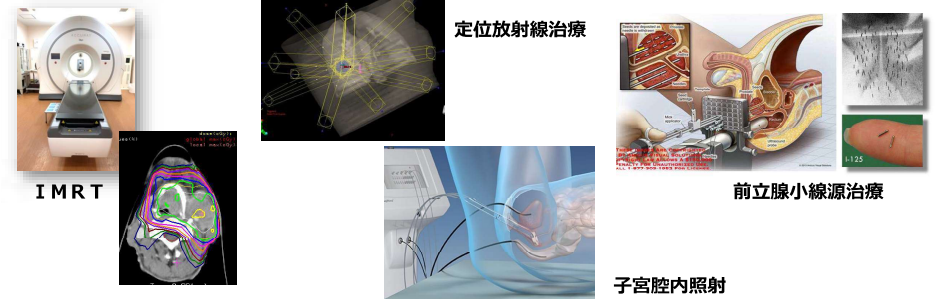
その他、多方向から三次元的に放射線を集中させることで、正常臓器への照射を減少させ、かつ腫瘍へより高い線量をあてること可能な定位放射線治療や、粒子線治療の開発なども進められています。最近では放射線治療と免疫との関係も注目されるようになり、免疫チェックポイント阻害剤と併用することで治療効果を上げることも知られています。

また、放射線治療は症状緩和に対してうまく利用することができます。痛みを和らげて今まで通りの生活を送ること、次の治療を万全な体制で迎えるために今の症状を放射線で落ち着かせることなどはがん治療においては積極的な治療と考えられますので、放射線治療と上手く付き合っていき、生活の質を保つお手伝いできればと考えています。

何かお困りの時はぜひ放射線治療科にお気軽にご相談ください！

放射線治療とは？

- がん放射線を集中させてあてて治療する
- 切らずにがんを治療することが可能→臓器の機能と形態を残すことができる



症状緩和のための放射線治療

骨転移の痛み
リンパ節転移の痛み

抗がん剤や免疫チェックポイント阻害剤
などと併用しながら照射

- 痛みを和らげて日常生活を送る
- 症状を放射線で落ち着かせてから、次の治療を迎える



症状緩和のための放射線治療も

がん治療においては**積極的な治療**！